THE KOHO NANKOKU
広報ナンコク

第49号
（毎月1回　全戸配布）
編集発行　南国市広報委員会
事務所　高知県南国市役所内（電話2111番）
印刷　川北印刷工業KK（電　2379番）

市の動態

人口　43,094人（男 20,801人／女 22,293人）
世帯数　11,057戸

地区	戸数	人口
本庁	5,893戸	22,279人
三和	2,275戸	9,332人
稲石	1,144戸	5,527人
岡豊	806戸	3,127人
十市	699戸	2,829人

市民は新人に期待
現職議員二人が落選

☆★☆★☆★☆★

市の発足後二度目の市議会議員の選挙は、全市一区の大選挙区制で始めて行なわれ、三十二人（現職二十二人、新人十人）の立候補者によって争そわれた。その結果現職二人が落選し、新人十二人は善戦しそろって議席を得た。

とくに今度の選挙で、組織票をバックに立候補した人たちが見事栄冠を収めたことは、これからの選挙のあり方を示したものと注目されている。

☆★☆★☆★☆★

進出した12人の新人
新風吹き込んだ市議選

二十一日の告示と同時に立候補を予定されていた人たちの届出は早やく、三十二人の立候補者をみ、その後立候補するものはなく、そのまま三十一日の投票日をむかえた。

投票当日は秋晴れの好天に恵ぐまれ、どこことも出足よく投票率もかなりよいとみられたが、立候補者が少なく低調な選挙戦に終始したため、前回の市議選九十一・六%を下まわり、八十八・七%にとどまった。

市民注目の的である開票は翌一日の午前九時から、市役所会議室で開らかれ、午後四時半、全部の開票を終えて三十議席を決定した。

新らしく選良された人たちの内訳は現職十八、新人十二、党派別では、社会一、共産一、公政連一そのほかは全員無所属で、そのうち保守系とみなされる人たちが多い。だが、前回よりも革新議員の数が増え、こんどの議会運営が注目される。

また、新人の進出が目立ち、公政連の猪野氏が初出馬ながら最高点を占めるなど、五位までを新人が独占し、立候補した十二人全員が当選した。また、年令的にも若返り二十七歳の猪野氏を最年少に、三十歳代三、七十二歳の八井田氏を最年長とし、平均四十五、六歳となっている。

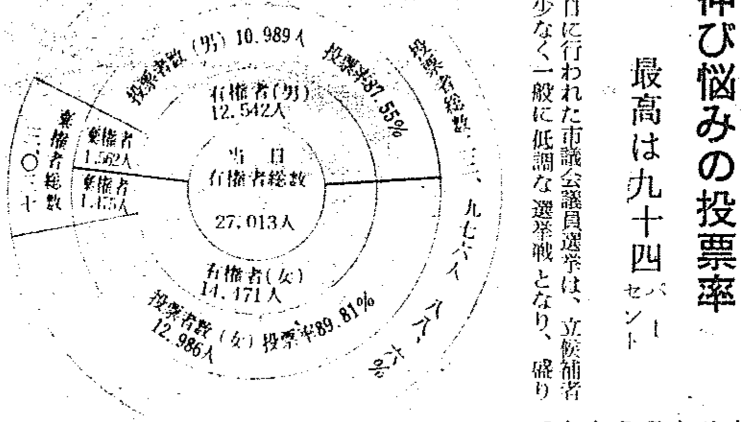
各候補者の得票数（端数を除く）は、つぎのとおりで、無効票は一八八票であった。なお、当選者のよこがおと、その抱負を二、三面に載せ市民に紹介する。

写真は　市役所会議室における市議会議員選挙の開票風景

候補者別得票数

猪野茂行	（公政連、新）	一、三二六票
島内正雄	（無、新）	一、二七六票
井口清	（無、新）	一、一四三票
浜田健夫	（無、新）	一、一三二票
八井田茂実	（無、新）	一、一一四票
久米徳幸	（無、現）	八二一票
野島浩洋	（無、新）	八〇三票
松岡幸寿	（社、新）	七九一票
井上満吉	（無、現）	七六八票
山崎清重	（共、新）	七六〇票
福川藤茂	（無、現）	七四八票
松木二郎	（無、現）	七一三票
平田良広	（無、現）	七〇八票
土居熊治	（無、現）	七〇六票
橋本一二三	（無、現）	七〇一票
岩原栄寿	（無、現）	六七八票
中田清茂	（無、現）	六六〇票
吉村雅男	（無、現）	六四三票
橋田信夫	（無、現）	六四三票
吉川清司	（無、現）	六四一票
神田晴重	（無・新）	六三八票
沢村武一	（無・現）	六三四票
小川良水	（無・現）	六三三票
北村広寿	（無・現）	六二一票
徳永安雄	（無・現）	六〇四票
野口幸重	（無・現）	五九七票
高木正延	（無・現）	五七八票
竹田広実	（無・新）	五七〇票
大谷巌	（無・新）	五六八票
鈴江潤次郎	（無・新）	五六三票
次点		
浜田善治	（無・現）	五一二票
溝渕亀吾	（無・現）	四八二票

伸び悩みの投票率
最高は九十四パーセント



三十一日に行われた市議会議員選挙は、立候補者の数が少なく一般に低調な選挙戦となり、盛り上りをみせることなく投票日をむかえたためか、身近かな選挙でありながら投票率はさほどの伸びをみせず、八十八、七%（男八十七、五五%、女八十九、八一%）にとどまった。

当日の有権者総数は、二万七千十三人、投票者総数二万三千九百七十六人、棄権者数三千三十七人であった。

投票率の最高は、第十七投票所（浜改田）の九十四、九六、第七投票所の（篠原）九十四、八一第十二投票所（土居ノ谷）の九十四、七十四とつづき九十%を越しているのは二十カ所あり、最低は七十八、二四の第三十九投票所（黒滝）で、つぎの七十九、七の第二十一投票所（後免）の二カ所のみは、八十%未満となっている。

なお、前回の市議選での最高九十九、一六、最低八十三、四十七、平均九十一、六%にくらべるとかなり低調となっている。

市中心部と奥地を結ぶ最短距離に
桑の川−奈路線林道起工

穴内川ダムが完成すると、上倉地区奥地の桑ノ川、黒滝、中ノ川方面と市の中心部を結ぶ道路は現在より長くなり、不便をかこつことになっていたが、さる十八日〝林道・桑ノ川−奈路線〟が起工され、やがていまよりも便利になる。

起工式は起点の桑ノ川橋で、池川市長、竹内助役、四電幹部、地元民ら約百人が参列して行なわれ、市長がクワ入れした。

現在奥地と市の中心部を結ぶ道路は、林。県・国道を利用し延長三十三キロに達している。しかもダムが完成すると一部が水没して、現在より長い付け替え道路を使うこととなる。

このため桑ノ川、黒滝、中ノ川の南の山越えに奈路に出て、市中心部に連絡する道路が計画されたもので、十キロほど短縮される。新道路の約三分の一は既設の県。林道だから、未工区間は六キロ余となっており、工費約八千万円は、国、県、四電の補助金などで造成される。

＝写真は起工式で工事の無事を祈念する池川市長（右下は起点桑ノ川橋）

大工賃千五百円に

市の大工組合は、大工賃を一日千五百円にすることに決めた。なお電動工具を使用すると三百円増しとなる。

こだま

市の今後の方向をかたちづける市議選は、市民注視のもとに行なわれその結果がでた。初めての大選挙区制とあって、立候補者も、選挙人も選挙情勢の判断はできがたかったであろうし、とまどいをきたしたものだろう。▼しかし、その結果からみて組織票の強さというものが如実に示された。このことは、こんごにおける市議選に対する一つの試金石であったといえる。▼また、出身地盤が小さくても恐れることもなく、大きいからといって安心はできない、候補者自身の人となりや、情熱、選挙人の共感を得ることも一つの要素であろう、そこに大選挙区制の面白さと、きびしさがあろう。▼ところで、広報にあつまった新議員の抱負をみるに、財政の早期立て直しに重点が多くあつまっているようである。それにもまして、都市計画や、道路網、市庁舎建設問題など、こんご市が行なわなければならない重要なことがらが、盛り沢山に寄せられてきた。▼それはどれもごむりごもっともなことである。しかし、どれから先に手をつけるかが問題となってこよう、ただ市政は、市民のためのものであり、市の執行部のものではなく、議会のものでもないか、市民がなにを望んでいるのか、市民の声をよくきき、その抱負の一つ一つを実行に移してもらいたい。▼また市民はそれを議員にのぞんでいる。▼こんどの市議選を契期にいままでの行政を心気一転し、溌剌とした真に田園都市にふさわしい南国市政の出現を期待したいものだ。

風致木植え
湖畔にキャンプ地

上倉奥地の桑ノ川と黒滝の一部は、穴内川ダム（建設中）のため、やがて水没することとなるが、地元民は湖畔に危険地として残される土地を利用、ヤナギ、イチョウ、メタセコイヤなどの風致木を植え、この間にキャンプが張れるようにして、外来者に提供することとなった。

第一回の植樹は今春すでに終わり、第二回を明春中に行なう予定で、計一千本を越すこととなる。

なお費用十万余円は、関係地区が受け取ったダムの公共補償費でまかなわれる。